

開催記録

名 称	第7回 振興計画町民検討会議
開催日時	平成22年1月13日(水) 午後7時～午後9時15分
開催場所	会津美里町役場高田庁舎 第6会議室
出席者	<p>【委員】 荒井弘之、歌川浩司、大竹久一、片山紀彦、片山玲子、佐藤正人、石川栄子、野中憲子、鈴木幸信、薄 謙一、根本謙一、馬場清志</p> <p>【事務局】 佐藤総合政策課長、木崎総合政策係長、渡部朋宏、榎森正典、大竹さおり、遠藤香(総務課)</p>
議 題	<p>①施策の成果指標について</p> <p>②町民意識調査について</p>
資料の名称	○「施策の成果指標の設定」
記録方法	<input type="checkbox"/> 会議全文 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1. 開会</p> <p>2. 協議事項</p> <p>(1) 施策の成果指標について</p> <p>《質疑》</p> <p>【委員】 自然環境の保全に関する成果指標について、これでは不足しているのではないか。たとえば、単に森林面積だけでなく、その質の面にも注目すべきであり、森林生態系を形作っているすべての要因を考慮すべきではないか？</p> <p>【事務局】 施策の成果指標は、広い視点で、かつ町民にわかりやすいものとして設定している。指摘された内容は非常に重要な観点であるが、施策にぶら下がる事務事業の成果指標設定の際に考慮すべきと考える。</p> <p>【委員】 町民意識調査はあくまでも主観的な指標であり、統計データ等の客観的な指標と同一に扱って問題ないか？</p> <p>【事務局】 客観的なデータを成果指標に設定できれば最も正確な数値をとらえることができるが、施策によってはデータで確認できないものもある。その場合、町民意識調査で把握する</p>	

ことも一つの手法と考えている。

【委員】 高齢者福祉の充実で、要介護の高齢者の割合を成果指標としているが、高齢者が安心して暮らせる視点から考えればいかがなものか？

【事務局】 高齢者が要介護にならないようにしていく観点から、この指標を設定している。要介護になった高齢者の安心については、意識調査で把握することとしている。

【委員】 交通事故の予防についても意識調査で確認すべきではないか？

【事務局】 交通事故については、発生件数を成果指標としている。

※ 成果指標について了承

(2) 町民意識調査について

《修正箇所》

- 2 ページ (問 6) 「自然環境」 → 「環境」
- 3 ページ (問 15) 選択肢 1 を削除 (設問との整合性がとれないため)
- 4 ページ (問 16) 選択肢に「環境に関すること」を追加
- 8 ページ (問 32) 前問 問 26 → 前問 問 31
- 10 ページ (問 39⑥) アンダーラインの位置を修正
- 11 ページ (問 42) 「利用」 → 「訪問」
- 12 ページ (問 44) 「利用」 → 「訪問」

《質疑》

【委員】 (問 9) の設問について、この聴き方であれば、有機性資源の堆肥化や再利用を進めべきとの答えが多くなると思われるが、現実には金額的な問題など課題も多い。このアンケート結果をとらえて、優先的に実施するようなことはないか？

【事務局】 実施にあたっては、当然、一つ一つの課題を解決していく必要がある。このアンケートは、あくまで町民の全体的な傾向を把握するものである。

【委員】 「まちづくり」という言葉は非常に範囲が広い。町民に周知する意味からも、まちづくりの定義を明確にすべきではないか？

【委員】 このアンケートにおけるまちづくりは、あくまで行政が主体的に実施していくもの(行政活動)をとらえているのではないか。改めて定義する必要はないと思われる。

【事務局】 (問 39①) では、「町の政策等」という表現を使っている。まちづくりを定義するのは難しいと思われる。

※ 町民意識調査の内容について了承

◎ 座長・副座長の選出については次回行う。

◎ 次回は「まちの財政状況」をテーマとして、勉強会的な位置づけで実施する。

3. その他

- ・次回の会議日程

平成 22 年 2 月 10 日（水曜日）午後 7 時～9 時 高田庁舎第 3 会議室

4. 閉会